

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	施設運営方針を基に、ホーム独自の理念を作り、額に入れ見やすい所に掲示している。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	従業員心得～10か条～にそって、管理者と職員は問題意識を持ち、日々研鑽と向上に努め、理念に基づく事業所づくりにチームで取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	グループホームの運営理念および理念に基づいた活動報告をグループホーム独自の広報誌に掲載し、家族に送付している。地域の人々に対しても、回覧板による広報や、運営推進会議での説明を行っている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内の清掃や廃品回収行事に積極的に参加し、近隣の人と交流できるよう努めている。また、朝のゴミ出しや近所への散歩のときなど、近隣の方への挨拶は欠かさないように心がけており、周囲の方からも気軽に声をかけていただいている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の清掃や廃品回収行事に積極的に参加しているほか、近所の大学・幼稚園等での催しがあれば見学させて頂き、地元の人々との交流をはかっている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業母体の診療所、関連法人のケアハウス等を含め、入居希望その他在宅での介護サービス利用の希望の際には、各事業所との連携をとり、迅速な対応を行なうように心がけている。また、入居者と職員で草むしりを行うなど、入居者も地域住民の一員として地域への貢献に参加できるように活動している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価に関しては、職員全体で取り組むことでその内容や意義を理解し、自分たちが行なうケアやその反省点について振り返ることにより、今後の業務に活かせるように取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回開催し、事業所や入居者の活動報告を行なうだけではなく、行事・活動内容に対する助言をいただいたり、地域行事の開催予定や参加方法の確認を行なって、地域活動に積極的に参加できるように努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	サービス提供や制度等に関する疑問点については、市担当者や福祉事務所を通して、相談・助言を頂くように心がけている。また、地域包括支援センターには定期的な入居状況の報告を行うとともに、地域包括支援センター主催の勉強会や集団指導には必ず参加するように努めている。連携を意識し、いろいろな相談をして、他グループホームの良い情報もいただいている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在該当するケースがない状況だが、必要時には活用できるように、管理者・相談業務にあたる職員は各種研修会、講習への参加に努めている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	法人内の勉強会や外部の研修会等に参加し、個々のテーマについて学び、問題点や解決策をミーティングで話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、事業所パンフレットや重要事項説明書を使用し、費用その他契約内容について十分な説明を行い、理解・納得を得るような配慮を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者・職員ともに入居者と十分なかわりを持ち、意見をくみ上げられるように心がけている。また、苦情や相談がある場合は、職員会議で取り上げ、運営に反映できるように話し合いを行っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者の健康状態や近況を書いた手紙とホーム便りを、毎月上旬に請求書を送る際一緒に送付している。また、面会時に通院結果や最近の様子等を随時お伝えしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの違憲・苦情があった際には、職員会議等で取り上げ、運営に反映できるように話し合いを行っている。また、話し合いの結果をご家族に報告し、その後のサービスについての理解を得られるように努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議にて、意見・要望を聞き入れる体制を確保しており、日常業務の中でも意見交換を密に行い、サービス向上に反映できるように努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日常の買出しや大きな病院への受診時には職員の増員を行っているほか、緊急的な通院介助や事故対応にも対応できるように勤務時間の調整、職員確保を行なっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職務内容や雇用条件について、職員の意見が反映できるように努めている。異動は必要最小限としており、異動する際も、入居者の不安や苦情とならないように事前に十分な説明を行なうなど、配慮を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月のミーティング内での研修や、定期的に行われている法人研修の実施への参加。また、外部の研修への参加により、職員のスキルアップに努めている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括支援センターや北海道グループ協議会主催の研修会・ホーム見学会に参加し、各事業所の「事例報告」や「活動報告」について情報交換を行ない、サービスの質の向上に努めている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	親睦会を設置し、職員間の交流やストレス解消のための取り組みを行なっている。また、決められた休憩時間が確保できるように勤務時間の調整や、有給休暇をなるべく自由に活用できるようなシフト体制の確立で、心身両面で休むことが出来るように配慮している。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	今春より資格手当が支給されるようになり、資格取得への意欲が高まるような賃金体制をとっている。また、職員個々人の意欲や個性が発揮できるような職務分担を行なうとともに、管理者と職員が、日々対話する機会を持ちながら、研修参加の促しなどを啓発している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	入居前に利用されていたサービス提供者からの情報のほか、入居時アセスメントを含め、ご本人の状況やニーズの把握を行なうように努めている。また、入居者本人に聴く機会を持ち、ケアプランに反映させ、利用者のニーズに応える努力をしている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	入居前よりご家族との面会の機会を多く持ち、利用に至るまでの状況や経緯、現在不安に感じていることなどを聴くことができるように努めている。また、利用開始時よりご家族の意向が反映されたサービスを提供できるように、事前に暫定のケアプランを提示して確認を行なっている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談内容により、必要なサービスとその緊急性を見極め、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等と連携をとり、相談者への適切な対応が行なえるように努めている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事前に利用者宅を訪問し、利用者や家族と面談し、詳しく説明を行い、その後事業所に来所していただき、本人が安心して納得した上で、徐々に馴染めるよう努めている。また、入居前の施設見学や体験利用等を勧め、職員や他の入居者、施設の雰囲気などを事前に体験できるように配慮を行なっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、利用者を人生の先輩として尊重するとともに、生活協働体として役割を持つよう、場面づくりや声掛けをしている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族との面会時には、日々のケアの中での成果や困難に感じていることなどの報告を行い、アドバイスや助言、新たな要望などを聴き取ることで、職員・家族が協力して本人を支えていくことができるように努めている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご家族の希望により、外出や外泊をしていただいたり、こちらに来所していただき、家族との時間を持たせていただいている。また、年間行事への家族参加の案内も行なっている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご自宅やご家族宅への外出・外泊の他、本人の希望に応じて以前利用していたサービス事業所への見学も行っている。また、旧友等馴染みの方との面会にもできる限り対応できるように努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎月のカンファレンスの中で、利用者同士の人間関係を把握できるように情報の共有を行い、穏やかな生活が送られるように配慮している。また、必要に応じて職員が中に入り、関係調整を行なっている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も、必要に応じて随時相談の受け入れを行なう等、継続的な支援を行うことができるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方は、家族等と交え、本人が「どこで」「だれと」「どのように」暮らすことが最良なのか検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等について、ご本人やご家族からはもちろん、それまでのサービス提供者からも情報収集を行い、その情報の共有・把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中で、ご本人の個性や暮らし方を見出し、その詳細を記録として残すことで、現状の総合的な把握ができるように努めている。また、毎月のカンファレンスで職員間の情報の共有も行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスの中で、職員間での意見交換を行うとともに、ご家族からの意見や助言等も考慮して、個別の介護計画の作成を行なうように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングによる継続、見直しの判断を行い、その期間以外でも身体状況の変化に伴いケースカンファレンスを行い、介護計画の見直しに繋がるよう取り組んでいる。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護記録の他、定期的なモニタリングやアセスメント表を作成することにより、定期的な生活状況を職員間で把握・共有し、介護計画の作成やケアの実践に活かせるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や外出時の送迎援助を行う他、季節に合わせた楽しみのある外出ができるように、年間行事を実施している。また、受診や入院をできるだけ回避し、入居者の負担とならないように、医療連携体制を活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に民生委員の方に参加していただき、施設の自衛消防訓練においては、消防署に通報訓練の協力をいただいている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域包括支援センターや他事業所との連携を図り、訪問理美容等の介護保険以外のサービスの紹介や活用ができるように努めている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが定期的開催するケアマネ交流会や研修会への参加し、包括支援センター職員も定期的に訪問して下さり、施設の空床情報の共有もあり、効果的な連携が図れるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族の希望を尊重し、これまでの主治医を継続する体制をとっている。その他にも経営母体である診療所とも協力医療機関として契約し日常の健康管理、その他の相談助言等の医療支援を受けられるよう整備している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要に応じ主治医と相談の上、専門医の紹介を受けられるよう努めている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医療機関と医療連携体制の契約を結び、看護師の訪問を依頼しており、必要に応じて通院治療を受けられるよう体制整備を行っている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には医療機関・家族双方と連絡をとり、情報交換・状況報告・相談等を行い、退院に備えられるようにしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>本人及び家族の主張を尊重し、主治医等医療機関とも情報交換し、身体状況の把握今後の方針等を含め、方針を共有できるよう努めている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療連携体制の整備に伴い、『重度化した場合における対応に係る指針』を策定し、家族及び近親者の意思の確認を含め、グループホーム、医療機関、家族がチームとして支援に取り組めるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族とも十分に協議の上、本人のこれまでの生活習慣や環境を把握して、施設入所の際にも暮らしの継続性が保たれるように努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>医療機関等と情報共有する際の個人情報の管理から、排泄、入浴等日常生活におけるプライバシーの保護まで徹底して管理できるよう職員間で協議し、取り扱いには充分注意している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の意思を傾聴することにより尊重し、可能な限り生活の各場面での自己決定ができるような支援をするよう努めている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>お腹がすいていない時には別の時間に食事を提供したりなど、集団生活の場においても本人のペースを尊重し、それに沿った援助ができるように努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の好みや嗜好に合わせた支援を行っている。理美容は訪問美容室が継続的に来て下さる事により、馴染みの関係も築かれ利用者も安心して散髪等利用されている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立メニューを工夫して作成している。ホームの庭で収穫され野菜も使用し、食事をより楽しんでいただけるよう工夫して取り組んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎日のおやつ時の飲み物の好みを聞き入れて提供したり、一人ひとりの状況に合わせた提供をしている。 現在喫煙者や飲酒を希望される入居者はいないが、希望される方がいれば随時検討していきたい。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄記録を行い、排泄のリズムやパターンの把握に努め、排泄の失敗やおむつの使用を減らすことができるように、定時誘導を心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に2回、定期的な入浴の提供を行っており、排泄・体調などの状況により、シャワー浴の提供は、曜日や日時を決めずに行なっている。一人ひとりがゆっくり、のんびりと気持ちよく入浴できるよう声掛けや会話、雰囲気作りに配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	食事後や入浴後、外出後などに一人ひとりの状態や声掛けによって休んで頂いている。 夜間眠れないときなどは、少し会話をもったり、温かい飲み物を提供したり、マッサージをしたり等落ち着いて眠れるような配慮をしている。 また、医療機関の指示のもと、必要に応じて睡眠導入剤も慎重に取り扱っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	夏はドライブに行ったり、ホーム周りを散歩したり、庭の畑で収穫を手伝ってもらい、冬は室内でレクリエーションを行って体を動かしたりみんなで歌を歌う等の機会を提供している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族からの預かり金は事務所にて管理している。床屋や欲しいものがあるときの買い物等、すぐに使用できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	暖かく天気の良い日は、なるべく外に出るよう心がけ、ドライブ・買い物等に出かけている。また、体調を見て家庭菜園の手伝い等にも参加して頂いている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事として、花見や白鳥見学等その季節に合ったものが見られるような外出を計画、実行している。 今後はご家族も一緒に出かけられるような機会を増やしていけるように努めたいと思っている。 また、どうしても冬季間の外出が困難なので、屋内の行事を取り入れたり等、工夫を行なっている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や知り合いの方に手紙や電話を出来るよう、見守り介助や手伝いをさせていただいている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	毎日の居室掃除を行い、清潔保持ときれいな生活環境を保つよう心がけている。 又、職員一同笑顔を忘れず、明るい雰囲気でお客様を迎えられるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルの活用や、身体拘束の勉強会などへの積極的な参加で、拘束・虐待のないケアを実践している。 また、職員全員でアイデアを出し合い、いろいろと工夫して検討・実行し、より良いケアが出来るように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠せず、玄関のチャイム・ランプで来客の確認・対応をし、本人が外出したときは同行して、見守り・声掛けを行い安全面に配慮している。 玄関のチャイムは、外出の制限のためではなく、職員と一緒に安全に外出するためのものであると認識している。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、日中は目配りを多くし、事故のないように注意している。 夜間は巡回を多くして、状況を把握し安眠を確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状態に合わせ、管理できる方は、はさみや裁縫道具など使用してもらっている。また共同で使用している包丁や漂白剤、鍬や鎌などの農機具は目につかないところに置いている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットの記録を残し、それに対して話し合いをして、再度、事故が起きないように、報告・検討し予防している。薬は毎回、個別の薬箱から取り出し1回分ずつ準備し、誤薬のないように服用する時に確認している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対処法についてマニュアルを定め、初期対応時の訓練等についても、法人内部研修において講師を呼び法人全体の講習という形で参加している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災避難訓練を年二回行っている。その他、講習に参加したり、災害対策については日々勉強している。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の状態に応じ、転倒や独歩の際のふらつき又は内服薬の副作用によるふらつき、食事摂取量の減少による体力低下等が見られた場合においては、ご家族の方に説明して理解してもらい、その都度対応するよう努め、利用者により良い支援を提供することを伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員個々が利用者の体調面・精神面を業務交代時の引継ぎにより把握し、一日の生活の中で体調やその他の変化にすばやく対応できるように、職員間の情報共有・意見交換により体調変化等の早期発見に努めている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の服薬については個別の処方薬ファイルにより、その目的・副作用・用法・用量等を理解するよう努めている。また、新たな目的で追加処方があった場合においては、その内容を管理者が各職員に伝達して、全員が理解した上で服用の際の支援と症状の変化の確認に努めている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘による利用者の身体的・精神的な様々な影響が見られるため、日々の排便状況を確認し、原因となりえるものを取り除き精神面における声掛けや、運動、水分摂取量への配慮を行っている。また、主治医と相談して内服薬による排便状況の調節を随時行い、症状の改善に取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアにおいては、利用者個々の能力に応じ見守り・介助を行っている。さりげない声掛け本人のプライドを傷つけない程度の確認を行い、口腔内の清潔保持を心掛けるよう努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者個々の個人差を把握した上で、その状態の確認をし、食事摂取や栄養のバランス、水分摂取量等を一日を通して確保できるように支援している。 また、各人に合った食べやすい食事の提供ができるよう、粥食・きざみ食・とろみ食などを用意したり、時間をかけてゆっくりと摂取してもらうような声掛けをする等の個々の状況に適した方法で随時見守り・介助を行っている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症への対策は早期に情報を収集し、必要な用具(消毒薬・うがい薬・マスク・グローブ等その状況に応じたもの)を揃え、職員に対処方法を説明・理解してもらい、施設内に設置している。 感染者がでた場合は連携医療機関に連絡し随時対応方法を確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所や調理器具、食材の衛生管理が不適切な場合に食中毒が発生することや、それが原因となって利用者が体調不良を起こすことをしっかりと把握し、日々台所の衛生管理や食材(在庫量・鮮度等)の管理に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関ホールは十分な広さを確保しており、利用者や職員の靴は下駄箱に収納し玄関先には置かないようにして、常にきれいな状態で利用者やご家族を迎えられるように努めている。</p> <p>周囲も自家菜園を造り、清潔で家庭的な落ち着いた雰囲気を保たれるよう努めている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングや個々の居室は大きな窓から日光が差し込み、又窓外の風景を眺めて季節を感じるができるようになってきている。同時にブラインド・カーテン等の操作により採光の調節を行い利用者が快適に生活できるように配慮している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用空間であるリビングルームには食卓テーブルがあり、そこで食事をしたり、他の利用者と談話される等している。一日のほとんどをリビングで過ごされたり、個人の居室で過ごされたりと様々で、食卓席のほかにソファで過ごされたり、それぞれがいる場所がその方にとって好きな場所になっている。今後も利用者がより過しやすい環境の整備・工夫を考えている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の馴染みの家具等を持ち入れてもらい、御家族の写真を飾るなどその方の希望や好みに合った居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>リビング・ルームには温度・湿度計を設置し、低湿度のときは濡れタオルを掛けたり、洗濯物を干す場所を変えるなどして、利用者の体調に配慮しながら湿度調節をしている。</p> <p>換気・空調にも常に注意を怠らず、快適な室温の保持、消臭剤の使用や窓の開閉による換気などを心掛けている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部に手すりをつけ、独歩あるいは杖歩行が可能な利用者が安全に歩行できるように配慮している。 又、トイレ内部には手すりの設置や、車椅子での利用が可能なスペースの確保をするなどして、立位支援や自力による利用が可能なような配慮も行っている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の残存機能を把握し、できる部分は自分でやってもらっている。精神面での安定を図り、声掛けやちょっとした援助で本人の持つ力をより引き出せるように工夫し、混乱や失敗に対しても自信を失うことのないよう対応し、自信回復していけるよう支援する努力をしている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	天候温暖な日などは庭先にておやつを食べたり、花壇を眺めたりしている。春から秋にかけては畑にて野菜の栽培をし、トマト・きゅうりの収穫等をしてもらって季節感を味わってもらっている。		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くない
98 職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・経営母体が医療機関であるため、医療連携体制や緊急時の対応を迅速に行なうことが出来る。
- ・関連法人による他の介護保険サービスが充実しており、入居相談や退居後の対応も迅速に行なうことが出来る。また、本人だけではなく、家族・親戚・知人の介護に関する相談にも対応が可能である。
- ・計画的な職員研修を毎月実施しており、職員のスキルアップを図っている。
- ・入居料金を低価格に設定し、ご家族の費用面での負担軽減を図っている。
- ・地域住民や地元の関係者との繋がりを新聞の発行等により外部へ発信したり、町内会行事等への参加を積極的に行い、地域との交流を深めていきたいと思っている。
- ・入居者一人ひとりが自分の家であるという気持ちで生活できるように、家庭らしい雰囲気の中でサービスを提供している。